

子ども達は、「話を聴いて（関心を寄せて）ほしい」と常に思っています。これは、大人も同じです。人間の魂の叫びは、「気持ちを分かってほしい」「強くなりたい」「変わりたい」の3つだと言われています（キューブラ・ロス）。

子どもは関心を寄せてほしくて、「**注目行動（関心を得る為の行動）**」をします。正しいことをしても関心を寄せてくれないけど怒られることならすぐに関心を得られることを知っています。母親に怒られて涙を流しているのですが心の中は「Good!」と思っている不思議さがあります。人類は、敵から身を守るために集団を作ることによって命を守ってきました。脳は、このことを忘れていません。だから、関わりがなくなること（孤立）をととても恐れています。**関心を得られなくて辛くなると、マイナスの関心でもいいから欲しがります。**「何で同じことをくり返す!」「お母さん、ごめんね」と言った翌日にまたやります。愛情とは相手に興味を持って関心を示す行為です。これが薄れると「注目行動」が始まります。

子どもが、不適切な行為をした時に「**なぜ、こんなことをするのか?**」と原因を探るのを『原因論』で考えるといいます。それに対して、「**何をしようとしているのか?**」と目的を探ることを『目的論』で考えるといいます。

いじめを訴えて登校渋りをする子どもは、仲直りが成立すると今度は苦手な勉強を訴えます。それも解決すると先生の厳しさや「給食や日直」などの理由を話します。つまり「学校に行かなくて良い」という目的を達成する為に原因がコロコロと変わります。対人恐怖症があるから人前に出れないのではなく、人と関わって傷つくのが怖いから対人恐怖症を作り出していると考えます。関心を寄せてほしくて（気持ちを分かってほしくて）リストカットをする子には、「そんな方法を使わなくてもあなたの話にいつも耳を傾けているよ」と語りかけます。

子ども達の不適切な行動は4段階で上がっていきます。「関心を得る」ための『**注目行動**』から、親を怒らせて口論する「サル山のボスぎる」を目指す『**権力争い**』の目的へ、次に万引きや不登校等の自らの存在を落とすことで関心を得ようとする『**復讐行動**』に移行します。この段階に入ると第三者の介入を必要とします。最高位は、『**無気力行動**』といって、一生懸命に無気力な生き方を表現します。

次号では、「不適切な行動」の目的の見分け方を紹介します。